

プラスチックごみに関する市民意識アンケート調査

調査結果

市民2,000人を対象に配布し、43%の回収を得た

実施概要

目的	<input type="checkbox"/> 現在、世界的な問題となっているプラスチックごみ問題に関し、高松市民のプラスチックごみに対する意識や取組状況を把握し、本市のプラごみ削減施策等に反映させることにより、循環型社会を形成しゼロカーボンシティを推進する。
対象	<input type="checkbox"/> 20歳以上の市民 <input type="checkbox"/> 2,000人 <input type="checkbox"/> 「高松市住民基本台帳」から無作為に抽出
調査期間	<input type="checkbox"/> 令和3年8月1日～8月31日
配布 回収方法	<input type="checkbox"/> A3用紙1枚 両面 <input type="checkbox"/> 無記名式 <input type="checkbox"/> 郵送にて配布／回収(郵送とスマートフォン・タブレット回答の併用)
回収状況	<input type="checkbox"/> 回答数866件 (うち、郵便回答704、スマートフォン・タブレット回答162) <input type="checkbox"/> 回答率43.3%

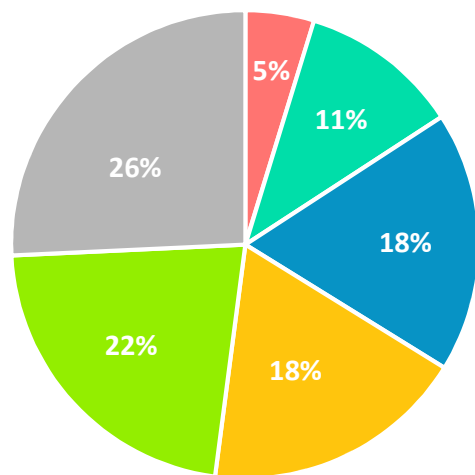
設問

ご自身について	1. 年齢 2. 世帯状況
プラスチック・廃棄物に関する認識について	3R、プラマーク、SDGs、海洋プラスチックごみ マイクロプラスチック、ワンウェイプラスチック バイオマスプラスチック、マイボトル、海ごみ
海洋プラスチックごみに関する認識について	瀬戸内海の家ごみ、マイクロプラスチックの影響 海ごみの発生原因、海ごみに関する認知状況
ご自身のプラスチックごみ削減の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物には、極力マイバックを持って行く。 ・外出する際はマイボトルを持っていき、ペットボトル飲料をなるべく買わないようにする。 ほか、計10項目 <ul style="list-style-type: none"> ・その他(上記以外で普段している取組事例(記述))
小売店等における「プラスチックに関するサービス」について過剰と感じるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・小売店の店員が、箸・フォーク・スプーンを一方的に入れる。 ・小売店等の弁当容器の中で、おかずが専用プラスチックカップに入っている。 ほか、計13項目 <ul style="list-style-type: none"> ・その他(過剰と感じるもの(記述))
小売店等が「使い捨てプラスチック削減の取組」を実施する場合に協力できるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品の容器を、簡易包装(ビニール袋、ノントレイ)や、紙製包装で提供する。 ・小売店等の弁当容器の中で、おかずを別のカップに入れない。 ほか、計12項目 <ul style="list-style-type: none"> ・その他(協力できる取組(記述))
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックごみ削減に繋がるアイデアや取組(記述)

参考)回答者属性

年代別

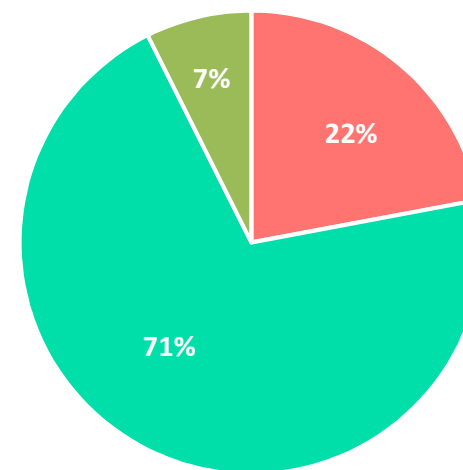
	回答数	構成比
20代	41	5%
30代	96	11%
40代	156	18%
50代	158	18%
60代	192	22%
70代以上	223	26%
総計	866	100%



■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

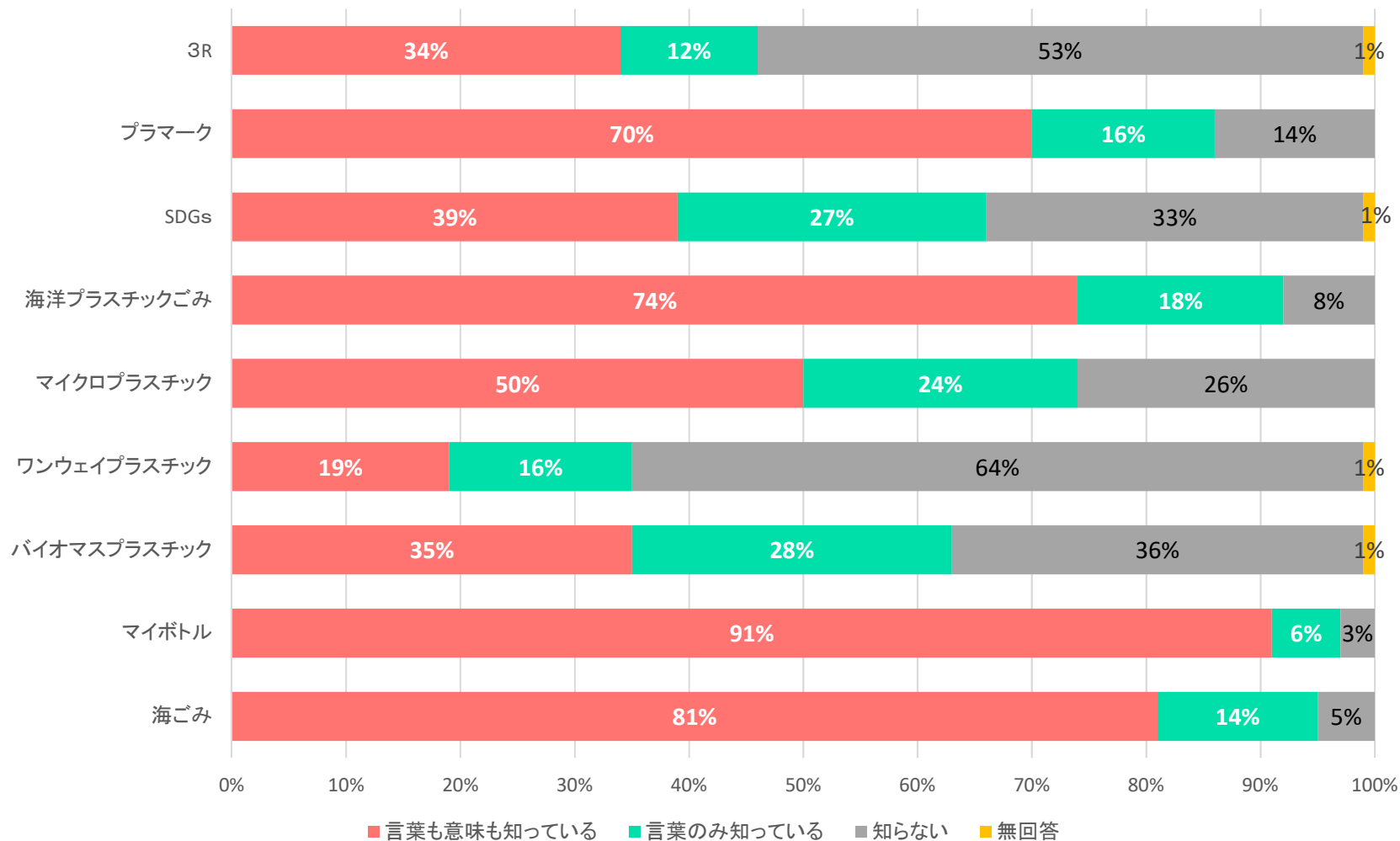
世帯別

	回答数	構成比
単身	191	22%
その他	611	71%
無回答	64	7%
総計	866	100%



■ 単身 ■ その他 ■ 無回答

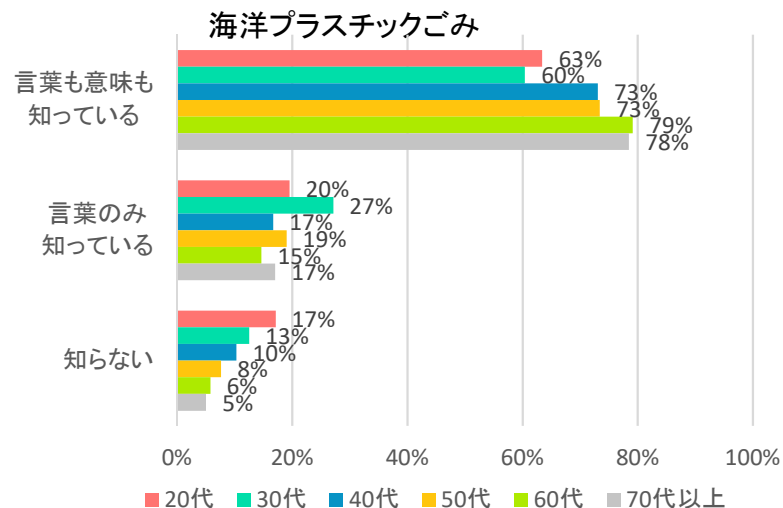
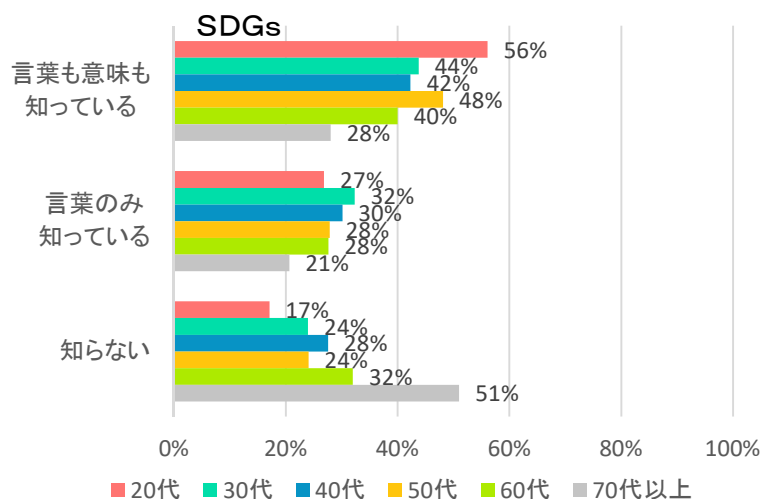
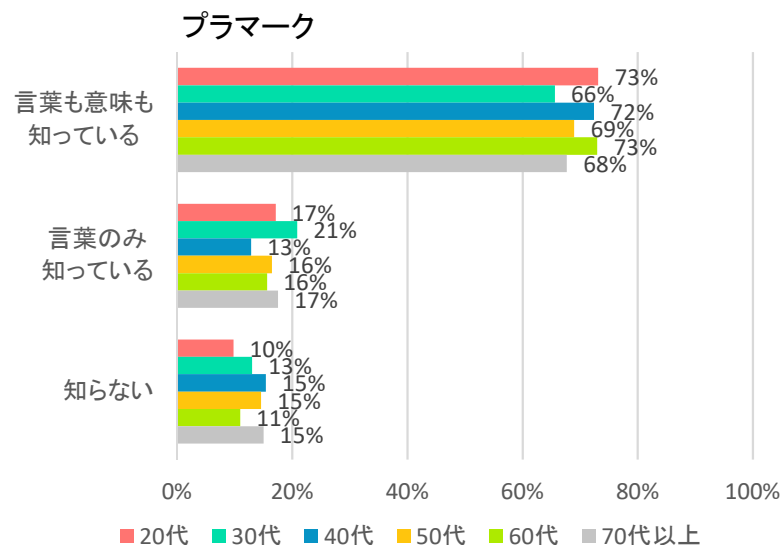
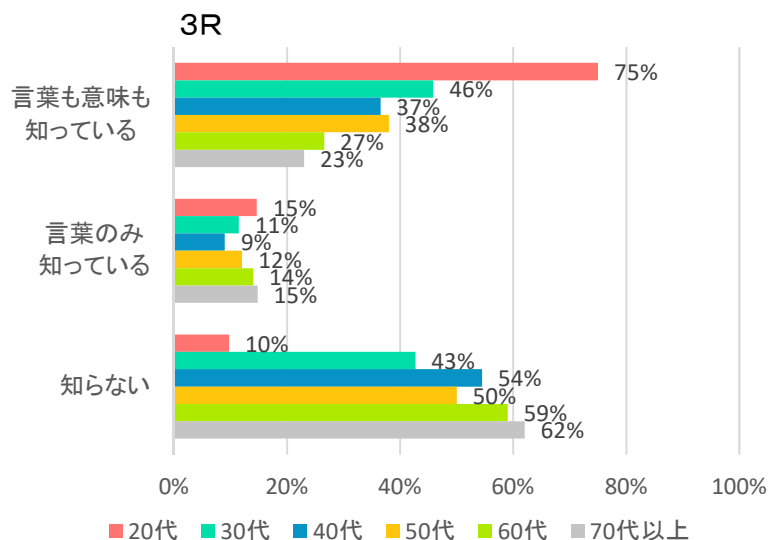
Q2 次に挙げる言葉について、どの程度ご存知ですか。



【回答傾向・分析】

「言葉も意味も知っている」で最も高かったのが、「マイボトル」の91%、次に「海ごみ」の81%で、日常的に見聞きする機会が多い言葉の認知度が高い。一方、最も低かったのが「ワンウェイプラスチック」の19%、次いで「3R」の34%、「バイオマスプラスチック」の35%であった。また、「SDGs」も39%となっており、「3R」と同様に、複数の概念を織り込んだ言葉の認知度が低い傾向にある。今後も積極的に情報発信を継続し、プラスチックごみ削減に関する市民意識の向上を図る必要がある。

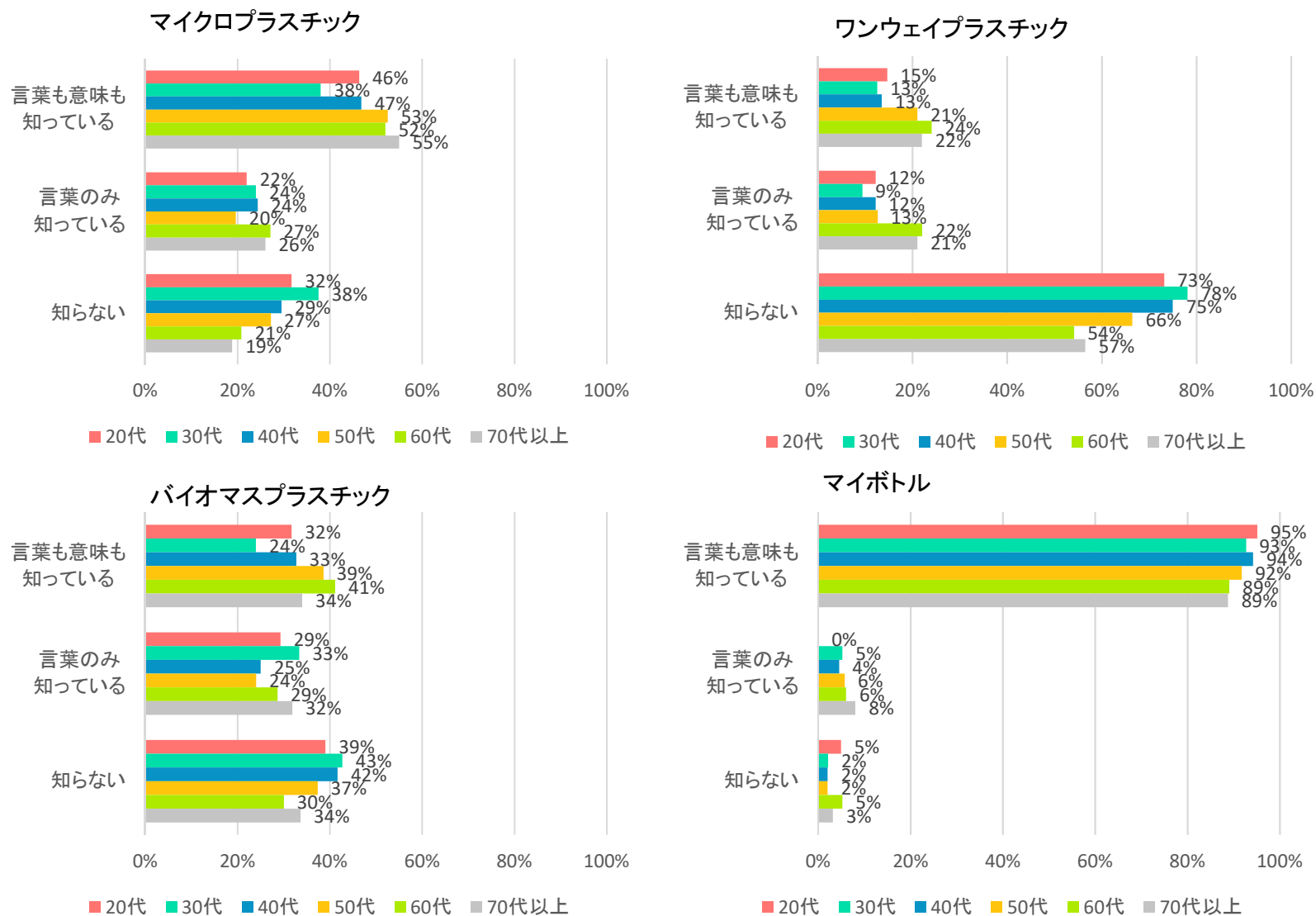
Q2 次に挙げる言葉について、どの程度ご存知ですか。(年代別回答率)



【回答傾向・分析】

最も年代で差が出た項目が「3R」であった。3Rの推進が始まった後、小学校の社会科のカリキュラムに3Rが盛り込まれたことが、学習をした世代の意味まで理解している者の比率が高くなった要因と推測される。また、「SDGs」については、現在、官民協働で国内実施を促進しているが、言葉の認知について、年代間の差が大きい結果となった。「プラマーク」については、各世代で広く認知されており、日常生活に定着していることが伺える。

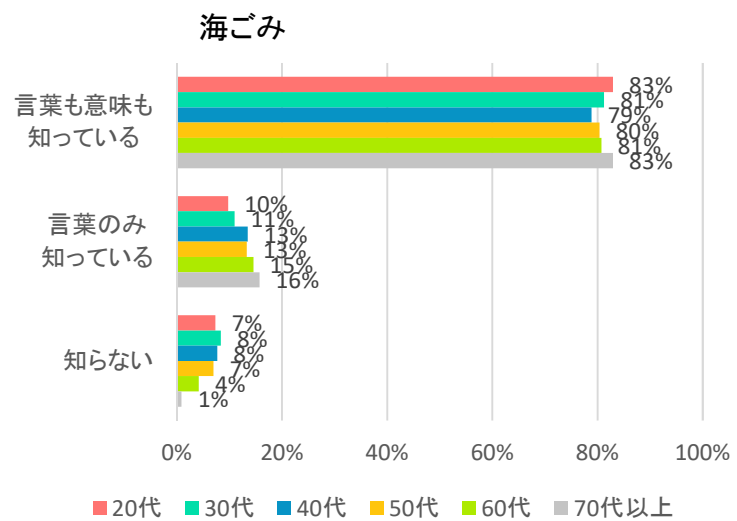
Q2 次に挙げる言葉について、どの程度ご存知ですか。(年代別回答率)



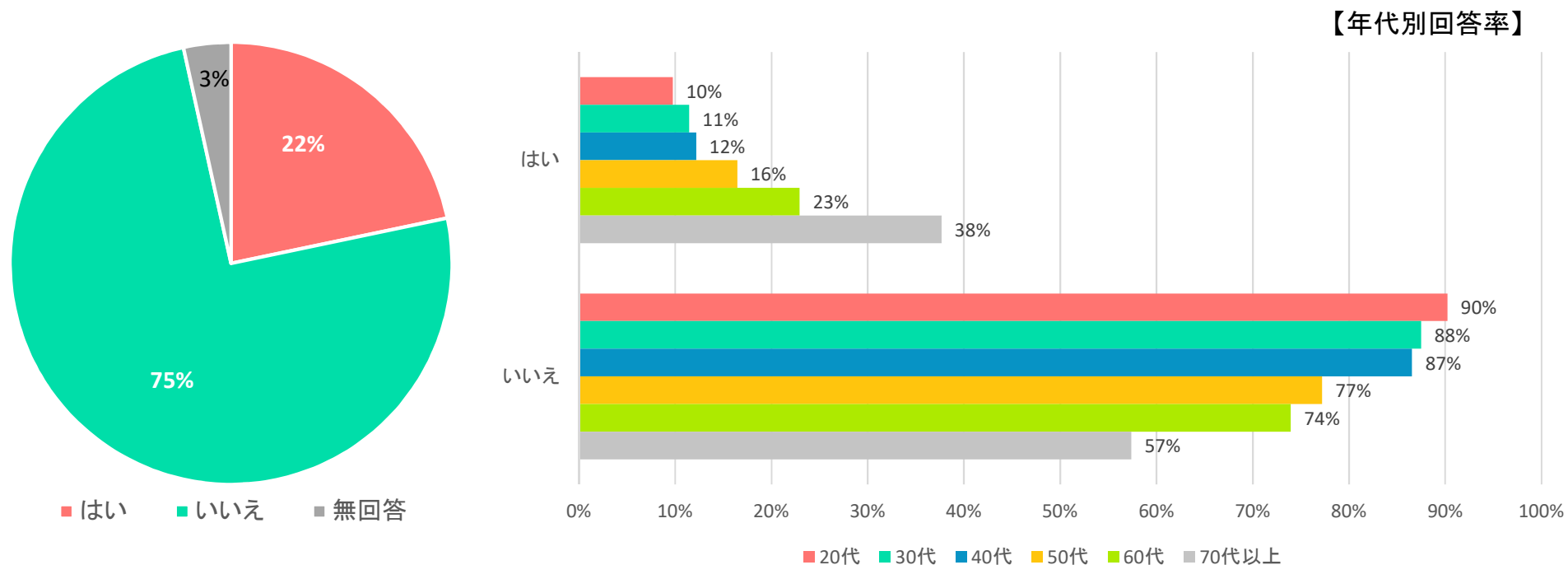
【回答傾向・分析】

国の「プラスチック資源循環戦略」において、地球温暖化対策にもつなげる燃やさざるを得ないプラスチック製品の代替として期待されている「バイオマスプラスチック」の認知度が各世代で低い。一方で、「マイボトル」は、すべての年代において、認知度が高く、今後、日常生活での利用促進につなげていく周知・啓発が必要である。

Q2 次に挙げる言葉について、どの程度ご存知ですか。(年代別回答率)



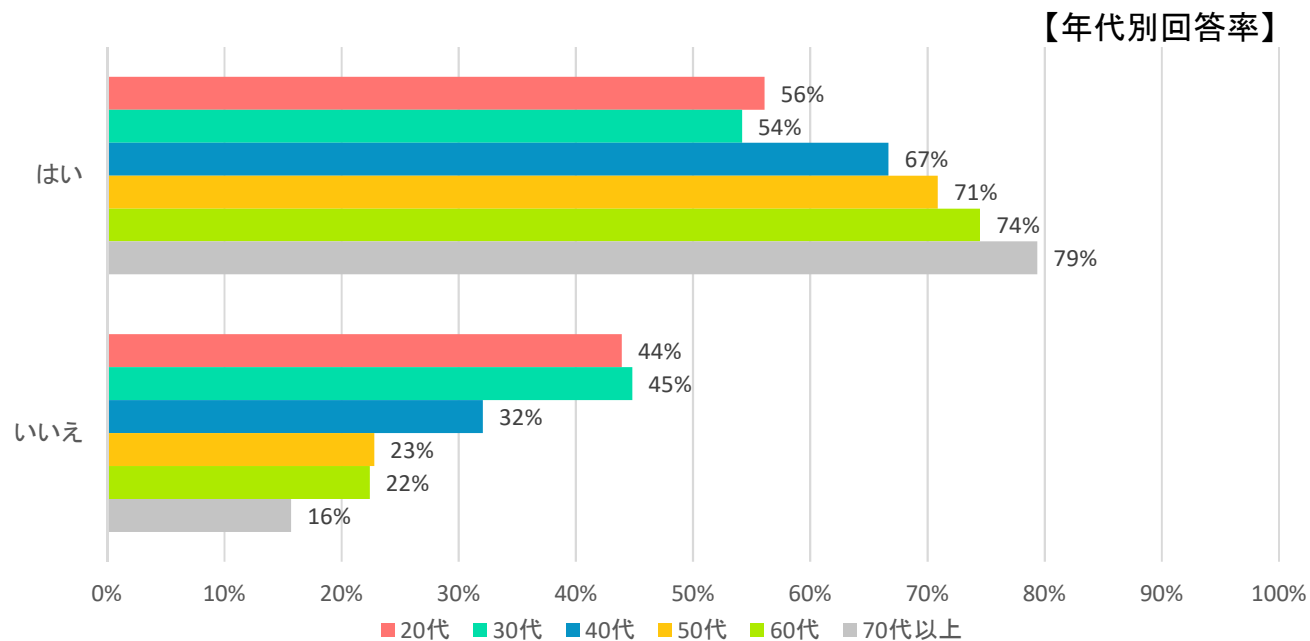
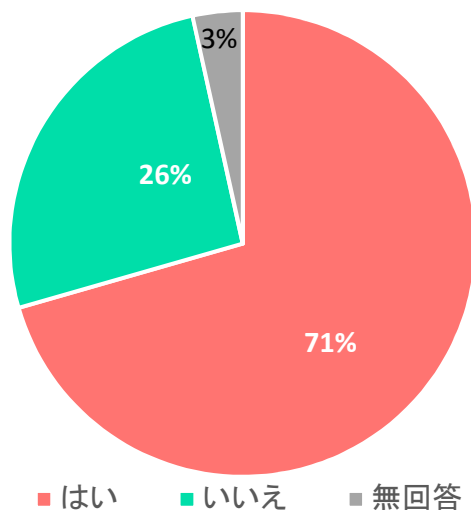
Q3-1 年間約4,500tのごみが瀬戸内海へ流れ出ており、そのうち約3,000t(約67%)は陸から流れ出ています。
 また、瀬戸内海の家ごみのうち、約70%がプラスチック類であることをご存知でしたか。



【回答傾向・分析】

Q2の言葉の認知度から「海ごみ」「海洋プラスチックごみ」については認知しているが、海ごみの多くがプラスチックごみであることを知らない市民が大半である結果となった。今後、海ごみの実態を認識してもらうための周知・啓発が必要である。

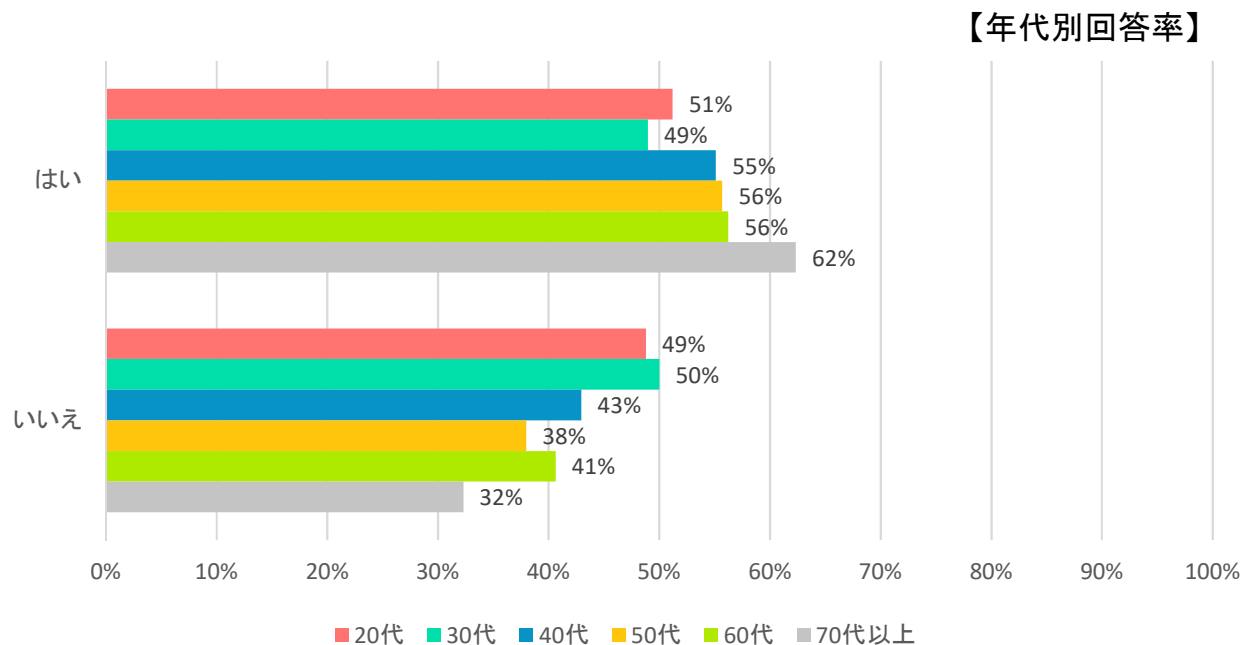
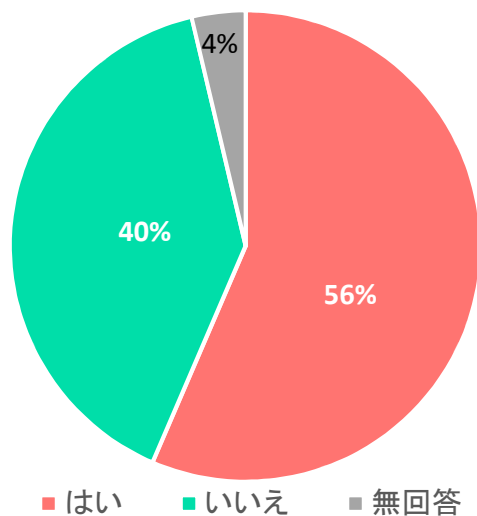
Q3-2 マイクロプラスチックには有毒物質が付着しやすく、また、そのマイクロプラスチックを餌と捉えた魚が誤飲しています。小魚を更に大きな魚が食べること(食物連鎖)により、有毒物質が生物濃縮され、人体に影響が与えられる恐れがあると考えられていることをご存知でしたか。



【回答傾向・分析】

「マイクロプラスチック」の有害性については広く認識されているが、年代間で認知度に大きく差があり、特に若年世代に対する周知啓発を強化する必要がある。

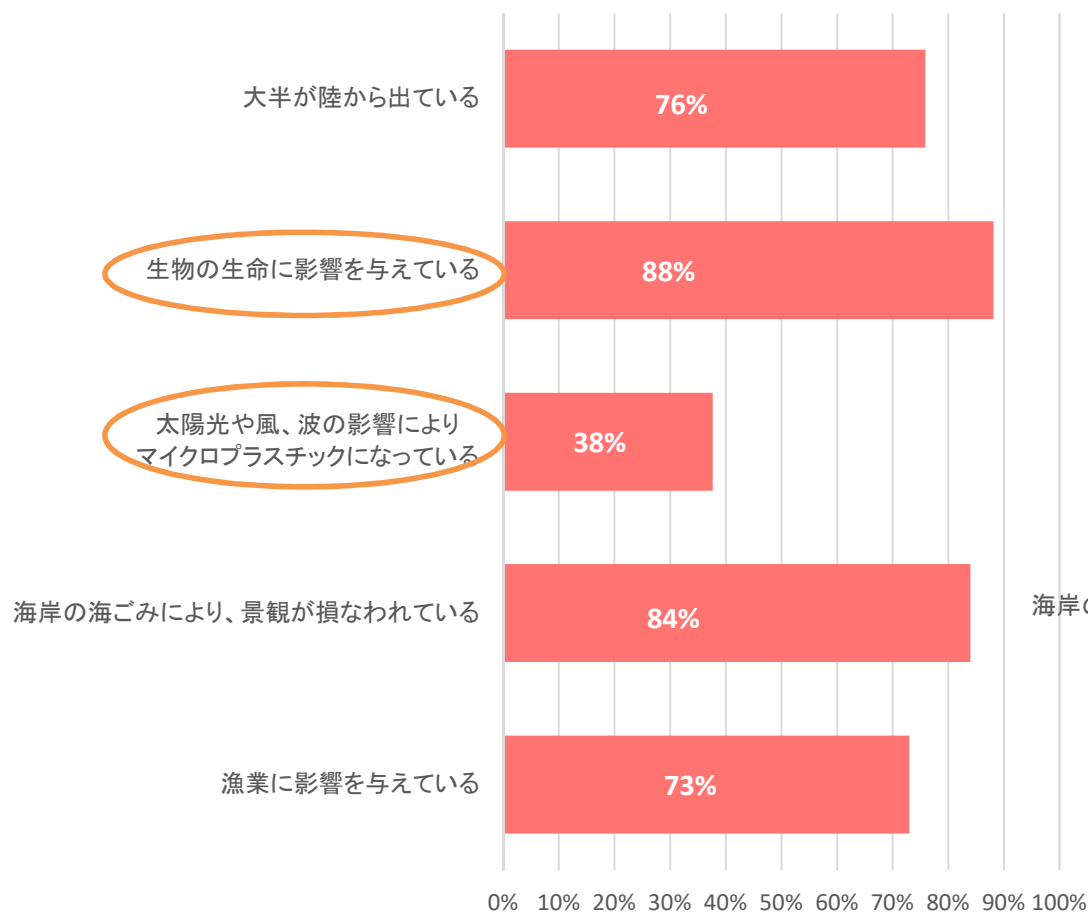
Q3-3 ポイ捨てされたごみ以外にも、きちんと分別して出されたごみや、屋外に置いていたバケツや洗濯ばさみ等の中には、台風や強風時に風の影響により飛ばされ、河川を通じて海ごみとなっているものがあることを、ご存知でしたか。



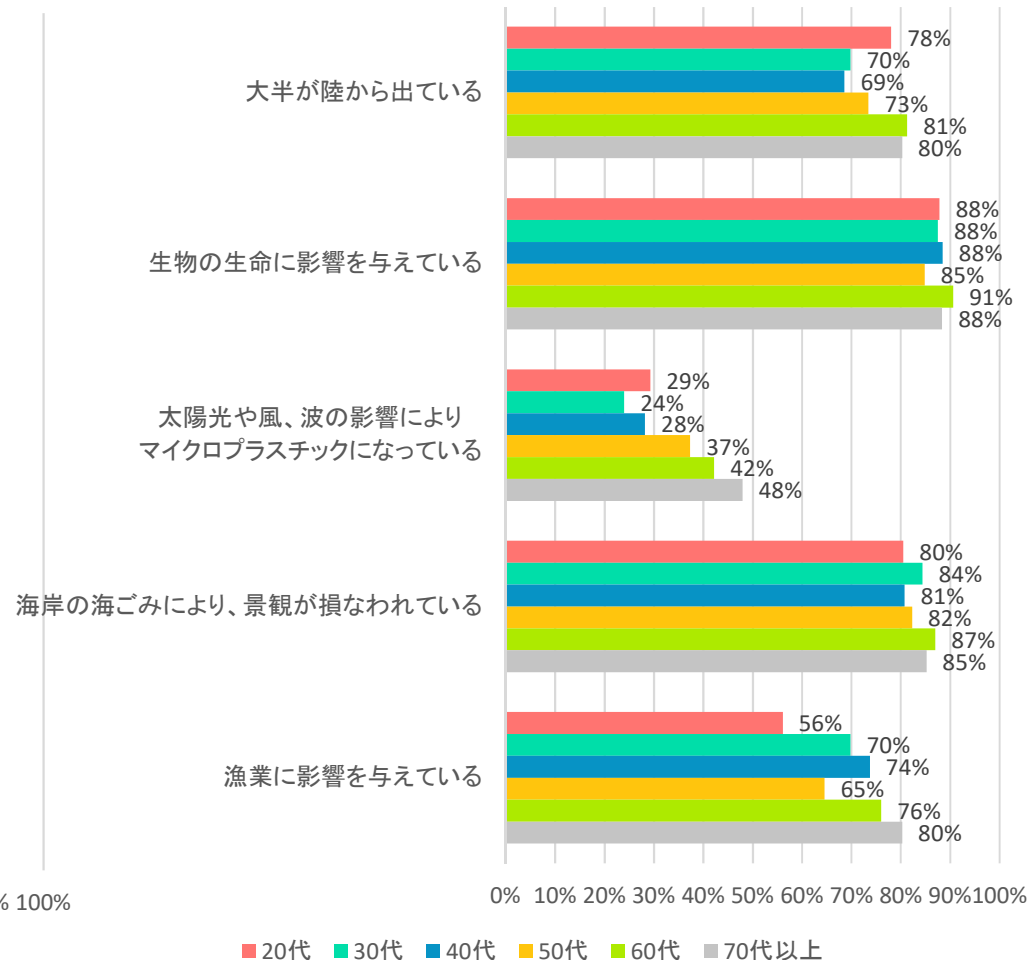
【回答傾向・分析】

プラごみの発生原因に、日常生活におけるプラスチック類の管理・分別が関係していることについてあまり認識されていない。Q3-1同様、今後、海洋プラスチックごみの実態を認識してもらえよう、清掃活動及び分別等の周知・啓発が必要である。

Q3-4 海ごみについて、ご存知のことをお選びください。(複数回答可)



【年代別回答率】

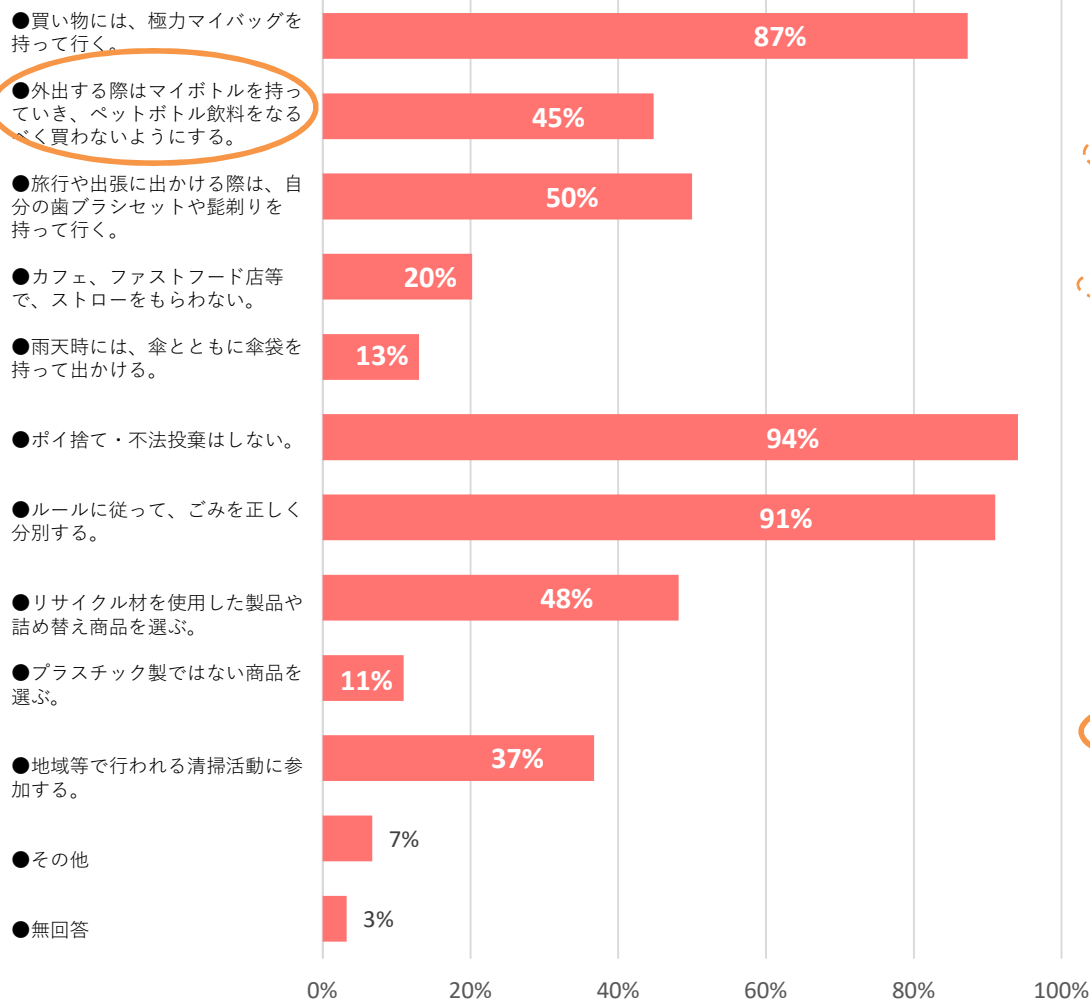


※一部、設問を要約している

【回答傾向・分析】

海洋プラスチックごみについて、「大半が陸から出ている」ことは、各世代で多くが認知している。一方で、「生物の生命に影響を与えている」ことに対する認知度が88%であるのに対し、「太陽光や風、波の影響により、マイクロプラスチックになっている」ことに対する認知度が38%と低い結果であった。「生物に影響を与えていることは分かるが、どうやって出来ているのかは知らない。」という人の割合が高いものと考えられ、今後も、海洋プラスチックごみを出さない生活に関する周知啓発を行っていく必要がある。

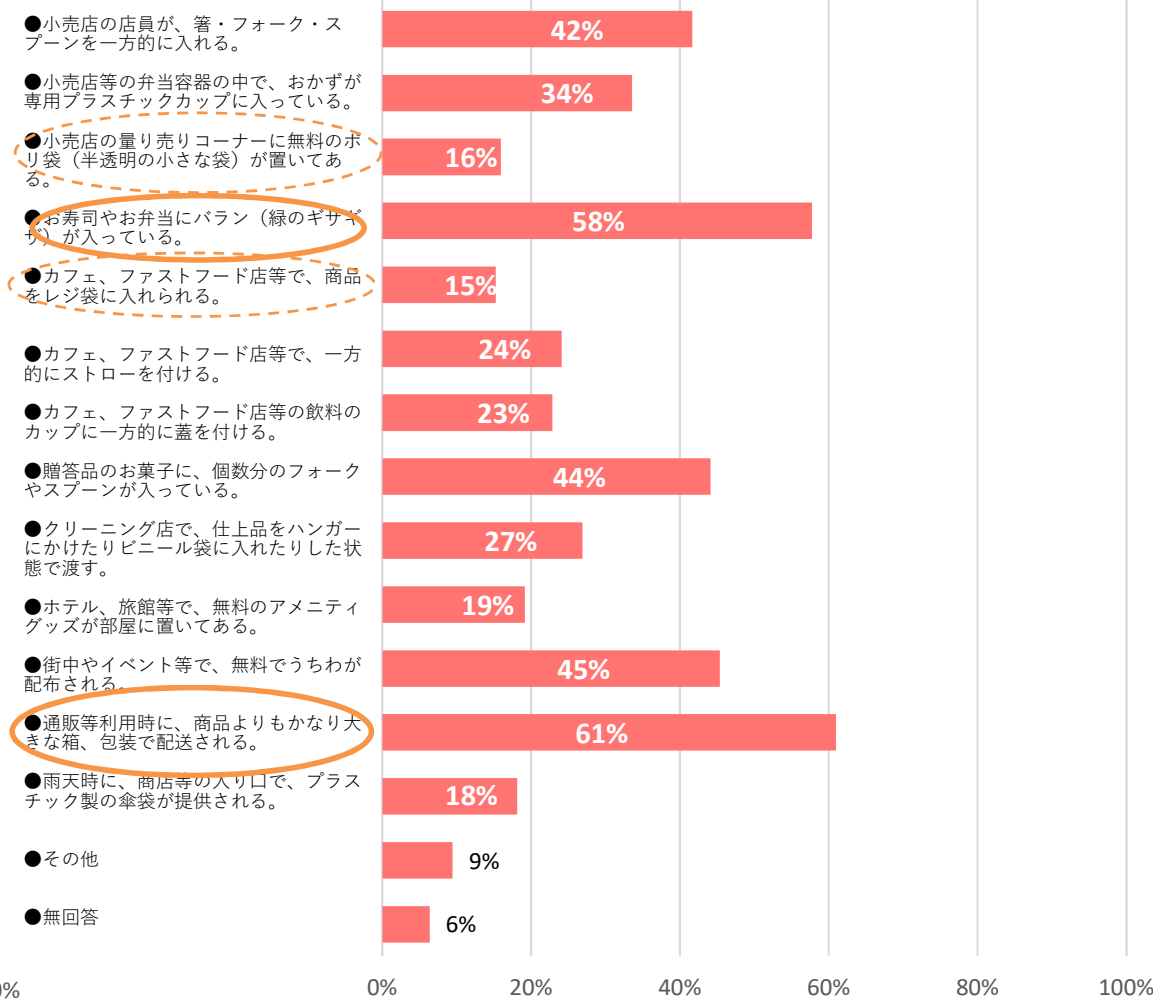
Q4 普段実践している「プラスチックごみ削減の取組」はどれですか。



【回答傾向・分析】

「ポイ捨て・不法投棄はしない」が94%、次いで「ルールに従って、ごみを正しく分別する」が91%と高く、環境意識が定着していることが伺える。Q2で「マイボトル」の「言葉も意味も知っている」が91%と高かったのに対して、「マイボトル持参」の取組みが45%という結果であり、今後、利用促進につなげていく必要がある。

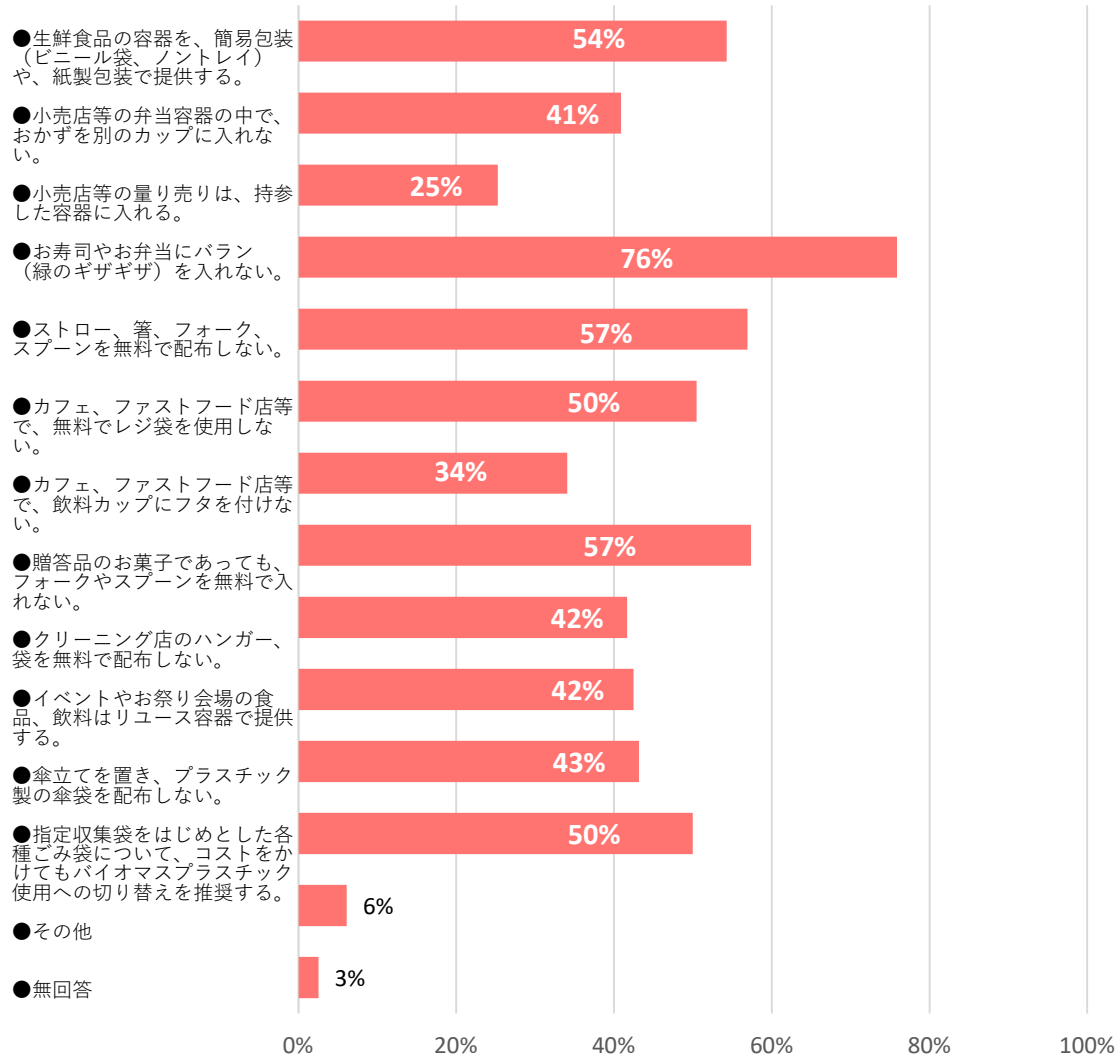
Q5 小売店等における「プラスチックに関するサービス」について過剰と感じるものはどれですか。



【回答傾向・分析】

「お弁当にバラが入っている」や「通販等利用時の包装」について、6割前後の方が過剰と感じる一方、「無料のポリ袋の配布」や「カフェ、ファストフード店等で商品をレジ袋に入れられる」ことを過剰と感じている人の割合は低い結果となった。レジ袋等削減に関する周知・啓発を継続する必要がある。

Q6 小売店等が「使い捨てプラスチック削減の取組」を実施する場合、どれに協力できますか。



【その他】

- ・消費期限が短くなっても、プラ以外の包装で対応できるものは対応しても問題ない。
- ・ヨーグルトの容器など、もっと薄くてよい。
- ・肉等をトレーでなく、プラスチックバッグのみで販売する。
- ・スーパー等で洗剤等の計り売り（容器持参）。スーパーのサッカー台に置いてあるビニール袋は不要。
- ・衛生面を考慮し、かつ利便性も図れるものであれば協力する。
- ・無料か有料かではなく、自動的に付けることは必要ない。必要な人へのみ、選択して付けられるようにしてほしい。有料の場合、材料代+環境保護のため限定に使われる税をつけたら良い。
- ・レジ袋の単価をもっと上げ、マイバッグの持参を徹底する。一昔前は皆、買い物かごを持っていた。
- ・希望者のみに配布、客の意思を尊重してほしい。
- ・個包装されている商品の中には、包装が過剰な物もある。店頭に出していてもあまり汚れない物は、一つひとつ包装しなくても良い。
- ・商品を少量買う際は、印としてビニールテープを貼ってくれますが、紙テープにしたらいいと思う。
- ・形だけバイオマスプラスチック製の指定収集袋（25%程度）を導入しても、大した意味が無いと思う。
- ・保冷剤は今だにプラスチックビニールのタイプが多い気がする。
- ・お店の有料レジ袋は少々高くなっても良いので、その後、市指定のごみ袋と同じ扱いで、ごみ袋として使えるようにしてほしい。
- ・ごみの焼却等には多額の税金が使われているので、プラごみも有料化し、且つ高配合率のバイオマスプラスチック製のごみ袋にすべきである。
- ・プラスチックを減らすのではなく、ごみを廃棄する際に、簡易的にリサイクル出来るようにする方が効果が出るのでは。

【回答傾向・分析】

小売店等が実施する「プラスチック削減の取組」の項目全体に対して、半数が協力できる結果であった。前問では、全体的に「過剰と感じる」との回答された割合が低かったため、サービスに対して過剰とは感じていないが、プラスチック削減のために企業等が取り組みを行った際には、「協力できる」と考えている方が多いと推測される。本市においても、市民生活に直結したプラスチックごみ削減につながる、市民に有用な情報発信を継続していくことで、市民の理解と協力を得ることが出来るものと考えられる。

Q7 その他、プラスチックごみ削減に繋がるアイデアや取組があれば、ご記入ください。(1/2)

分類	抜粋、一部要約
<p>周知啓発・教育 (45件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 子供や孫の未来のためにも、一人一人の分別に対する意識を変えていくしかないと思う。 <input type="checkbox"/> 教育が大切なので、幼少期から海洋ごみの勉強をどんどんする。 <input type="checkbox"/> お金を出したらレジ袋を買えるというのは何にもならないと思う。完全に、みんながマイバッグを使わなければ、ごみは減らないと思う。 <input type="checkbox"/> 言葉だけでは無く、若者を指導して欲しい。行政が説得力を持てば、市民も少々時間はかかっても協力すると思います。 <input type="checkbox"/> ・SDGsに国連が力を入れる理由、将来地球がどうなっていくか、それにより自分達の身に何がふりかかってくるのかを実感できるコマーシャルやイベントを増やし、協力を得ていきたい。 <input type="checkbox"/> ・子ども(成人に近い年齢)がいる家庭では、毎日のごみの分別を一緒にして、男女差なく能力を身に付けておくと良いと思う。 <input type="checkbox"/> 個人での意識改革を図るための啓蒙活動が必要。若い世代より、40代以降の意識が低いように思える。 <input type="checkbox"/> 収集されたプラごみが、どのように使われたりサイクルされたりするのももっと知りたい。
<p>代替素材の活用やプラスチック使用の見直し (75件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> プラスチックは非常に便利で、現在は無くてはならない存在。プラスチックと同等の性能をもつ、無害なものを技術開発するしかない。 <input type="checkbox"/> ペットボトルの容器を他のものに変える。 <input type="checkbox"/> 麻の繊維を活用した容器や袋などを使えば、プラスチックごみは減ると思います。 <input type="checkbox"/> 納豆のパッケージを、プラから紙に変えられないか？ <input type="checkbox"/> 間伐材で、ストロー、スプーン等を作ったらよいと思う。 <input type="checkbox"/> 肉・魚等をノントレイにする。 <input type="checkbox"/> バイオマスプラスチックへの切り替え
<p>プラスチックの回収・処理 (15件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 税金を使ってでも、しっかり処理できる施設を造り、国内のプラごみは国内で綺麗に処理できるようにするべきで、そのような事に税金を使用すべきだと思う。 <input type="checkbox"/> 河川には農薬や肥料のビニール袋が流れているので、販売した農協がきちんと回収するようにする。 <input type="checkbox"/> 「プラスチック容器包装」というくくりで、ごみの回収が行われていますが、分別が分かりにくく、プラスチック製(例:ハンガー、バケツ…)であれば全て一緒に回収するなどしてもらえるといいのかなと思います。 <input type="checkbox"/> ごみ減らすことだけを考えるのではなく、ビニールごみとして回収することを考えて下さい。 <input type="checkbox"/> 川の河口付近にネットを張って、定期的に回収したら良い。

Q7 その他、プラスチックごみ削減に繋がるアイデアや取組があれば、ご記入ください。(2/2)

分類	抜粋、一部要約
<p>インセンティブ (14件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 店舗ごとにプラごみ削減ポイントを付与する。 <input type="checkbox"/> プラスチックごみ削減に取り組んでいる企業に、特典をつけてあげる。税金を減らす等。 <input type="checkbox"/> 「使い捨てプラスチック削減の取組」をした人には、高松市指定収集袋が貰えるとよい。 <input type="checkbox"/> マイナス面を取り上げて「駄目」と言うだけでなく、良い取組みを行っている企業等を「素晴らしい」と褒める事も必要。信賞必罰で、悪いことは悪い、でも良いことはとても良いと評価することが積極的な参加に繋がると考える。 <input type="checkbox"/> 海外のように、地域ごとに気軽にプラスチックごみを捨てられる大きなごみ箱を設置し、捨てるコインが出てきて、それで買い物が出来る仕組みづくり。
<p>製造・使用抑制 (22件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 現在プラスチック袋を買えますが、税をつけてもっと高額にすれば良いと思う。 <input type="checkbox"/> プラスチック容器を生産している企業や、使用している企業に「環境税」として税金をかけ、これを具体的に「法制化」すればよい。 <input type="checkbox"/> プラスチックごみの削減は、レジ袋有料化のように、国が主導し、有料にしなければなかなか難しいと思います。 <input type="checkbox"/> パンフレットやDM等、ポストに投函されているもので、ビニールでの包装をしているものが多いので、ビニール使用は価格を高くしたらいいのでは？(郵便料金等) <input type="checkbox"/> ごみ袋やレジ袋以外の規制を強化しないと減らないと思う。
<p>清掃活動 (4件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各種団体・企業に、清掃活動の協力を、今一度お願いする。 <input type="checkbox"/> 清掃活動の結果をプラスチックを取り扱う業者にお知らせし、地元の人と協力してプラスチックごみを減らすようにする。 <input type="checkbox"/> 山・川・海・街中での市民清掃(ボランティア)を、もっともっと増やす。その為に、市民への呼びかけも、もっと増やす。(学校や企業を通す等、自治体や色々な団体に直接関わっていない人にも知ってもらう。また、広報で毎月参加者を募ったり、テレビCMを流したりする。)
<p>指定収集袋 (2件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 指定のごみ袋もプラで、しかも有料でわりと高額。全てには利用できないと思うが「米袋」の再利用はできないか。 <input type="checkbox"/> 高松市指定ごみ袋ではなく、シールにして、他のごみ袋も活用できるようにする。

普段実践している「プラスチックごみ削減の取組」

- プラスチック製品は簡単に処分せず、工夫して何度も使うようにしている。
- スーパー等にある、回収コーナーへ持っていつている。
- 蜜蝋ラップや蓋の使用など、極カラップを使用しないようにしている。
- コンビニに弁当箱等を持って行く。飲み物を買う時は、紙パックの物を買う。
- 洗濯ばさみ(洗濯周囲用品)や台所用品など、プラスチックではなく、長く使える金属やステンレス製の物を購入するようにしている。
- 夕飯にコンビニのレトルト食品を利用していたが、プラスチックごみが多くなるので、代わりに弁当の宅配を利用するようになった。

小売店等における「プラスチックに関するサービス」について過剰と感じるもの

- 商品の個包装が過剰。野菜や果物もビニール袋やプラ容器に入っている。
- 街中でのポケットティッシュの配布や、テイクアウトの商品に入っている小袋のウェットティッシュ、試供品の化粧品配布は不要。
- 納豆の外の包装が不要。また、お菓子の中には、外装・トレー・個包装が全て付いているものがあり、過剰包装である。
- 新聞、郵便、広告等がビニール袋に入っている。
- お寿司やお刺身に、小袋のわさびや醤油が付いている。別売りにして、有料にしたらいいと思う。
- 家庭用の洗剤について、全ての箱に計量カップが入っている。必要とする方がいるなら紙でも可。
- アルミ蓋の飲料にストローが付いている。使う人がいるかもしれないが、自身は使用していないので、必要な人だけが受け取れるシステムになればいいと思う。
- 建築材料の梱包が過剰。
- パン屋さんに行って同じ種類のパンを買っても小さい袋に1個ずつ入れられる。同じ種類のものは、一緒に入れても良いのでは。
- カットフルーツに入っている、硬いプラスチックの楊枝は不要。
- 衣料品等も販売しているスーパーでは、衣料品と食品を分ける為に小さなビニール袋に入れてくれますが、包装紙で良いと思う。
- ホテルのアメニティは無料のままでいいので、チェックインカウンターで必要な人だけが貰えばいいと思う。
- 無料のうちわは、貰う側も不要と思うが、配布側もイベントが終われば配布することが出来ず、無駄となるので不要だと思う。

小売店等が「使い捨てプラスチック削減の取組」を実施する場合、協力できるもの【再掲】

- 消費期限が短くなっても、プラ以外の包装で対応できるものは対応しても問題ない。
- ヨーグルトの容器など、もっと薄くてよい。
- 肉等をトレーでなく、プラスチックバッグのみで販売する。
- スーパー等で洗剤等の計り売りを実施(容器持参)。スーパーのサッカー台に置いてあるポリ袋は不要。
- 衛生面を考慮し、かつ利便性も図れるものであれば協力する。
- 無料か有料かではなく、自動的に付けることは必要ない。必要な人にも、選択して付けられるようにしてほしい。有料の場合、材料代+環境保護のため限定に使われる税をつけたら良い。
- レジ袋の単価をもっと上げ、マイバッグの持参を徹底する。一昔前は皆、買い物かごを持っていた。
- 希望者のみに配布、客の意思を尊重してほしい。
- 個包装されている商品の中には、包装が過剰な物もある。店頭に出していてもあまり汚れない物は、一つひとつ包装しなくても良い。
- 商品を少量買う際は、印としてビニールテープを貼ってくれますが、紙テープにしたらいいと思う。
- 形だけバイオマスプラスチック製の指定収集袋(25%程度)を導入しても大した意味が無いと思うので、もっと高い含有率のものを使用すべき。
- 保冷剤は今だにプラスチックビニールのタイプが多い気がする。
- お店の有料レジ袋は少々高くなっても良いので、その後、市指定のごみ袋と同じ扱いで、ごみ袋として使えるようにしてほしい。
- ごみの焼却等には多額の税金が使われているので、プラごみも有料化し、且つ高配合率のバイオマスプラスチック製のごみ袋にすべきである。
- プラスチックを減らすのではなく、ごみを廃棄する際に、簡易的にリサイクル出来るようにする方が効果が出るのでは。

【回答傾向・分析】

市民ひとり一人が日常生活の中で、自ら創意工夫を行い、事業者等の削減状況にも関心を持っており、プラごみ削減を社会全体の課題として認識いただいていることが伺える。